

総領事からのメッセージ(第10回)

『ジャクソンビル、オーランド、そしてレークランドへ』

(2011年6月)

6月15日～17日まで、以下目的でフロリダ州の北部・中央部へ出張して、各地で活躍されている方々とお会いすること出来ましたので、御報告を致します。

◎日系企業工場の訪問:

◆パイロット米国工場(ジャクソンビル市)

◆三菱パワー・システムズ(発電機の補修・加工)工場(オーランド市)

◎北フロリダ大学(ジャクソンビル)ゴンザレス副学長他大学関係者との懇談

◎ジャクソンビル港(コンテナ埠頭)視察

◎レークハイランドスクール(オーランド私立高)からの被災者義援金への御礼

◎オーランド市長代行との懇談

◎ローゼン・オーランド日本名誉総領事との懇談

◎レークランド市長表敬

◎ディズニー・ワールド代表者との懇談(東北被災者への折鶴「2760」への御礼)

◆パイロット米国社の工場訪問(ジャクソンビル)

(1)6月15日、ジャクソンビル国際空港から高速道路を南に30分、緑豊かな工業団地内にあるパイロットの北米工場に到着。早速、工場でのボール・ペン製造過程、梱包・配送作業ラインを視察しました(従業員、225名)。パイロット社で25年以上も勤務をされているデニス・パーレー社長へ、他州からジャクソンビルへ工場を移転した理由をお尋ねしたところ、①全米市場に向けた物流拠点としての地の利があり、高速道路網を利用すれば、米国本土は、どこも4日以内にトラックで商品のデリバリーが可能、また、②他州に比べて税制が簡素で、税率が低い(州の個人所得税はなく、法人所得税も低い)、③労働組合が企業に協力的な(right to work state)南東部州のひとつであるから、との回答でした。難を言えば、フロリダ州の電力料金が比較的割高であることと、一時的に電力供給が不安定になることが過去あったこと、との御指摘がありました。



(2)工場内の組立・製造、梱包・流通システムは、全てコンピュータでプログラム化されて、効率的、かつ迅速に作業されていました。全過程がコンピュータによる中央統御システム化されているので、電力供給が少しでも停止すれば、トラブルの原因となるので、自己防衛のために自家発電装置を工場敷地内に設置して、一回の燃料補給で3日程度は大丈夫な状態にある、また、中央統御のコンピュータと同じバックアップを他州に置いているとの御説明

がありました。

(3)同工場は、ボールペン用の部品を輸入していて、米国产ボールペンより価格が割高ですが、書きやすい、乾燥が早いといった特徴のG2タイプのものは、米国内で一番人気であり、毎月100万本近く売れていること、大手小売店を通じた全米流通ネットで販売しているが、顧客からの直接注文にも応じられる「Eコマース」も実施中で、お店に無いものを少量でも注文できるシステムです、とマーク・ピーターズ副社長からお聞きしました。なお、同工場の訪問に際してお世話になった太田様から、赴任当初、家族共々、生活に慣れる迄が大変で、車優先社会では、家族が近所のお店に買い物に行くにも車が必要であったなど、いろいろ現地事情もお聞きしました。

○北フロリダ大学(ジャクソンビル)

6月15日午後、ジャクソンビル市から南に20分程度の所にある州立北フロリダ大学を訪問、ゴンザレス副学長、国際センター所長、経営ロジスティック部教授等と懇談しました。地域の大学として、1万6500名の学部・修士課程の学生を擁し、日本との関係では、上智大学との学生交換プログラムがあり、関東の私立大学とも交流を検討しています。同大学の学生を連れての日本・中国への短期スタディ・ツアーも実施されていること、今、特に力を入れているのは、経営ロジスティック学部、音楽学部、栄養学科などであるとのゴンザレス副学長からの御説明がありました。日本語学習を希望する学生も多いが、適当な日本語教員が見つからないことが悩みであり、助言をお願いしたいとの御発言もありました。

○ジャクソンビル港・商船三井コンテナターミナル

ジャクソンビル空港から車で約20分、ジャクソンビル港があります。商船三井の大型投資により2009年に開設されたコンテナターミナルは、大西洋から11マイル川を遡ったところがあり、コンテナターミナルとして州内最大です。同建設に3億ドルを投資することになった同交渉は開始から締結まで2年を要したとジャクソンビル港(JAXPORT社)シュライファー副社長からお聞きしました。同ターミナルには、コンテナ運搬等のための1基1億円以上の大型クレーンが10基以上ありました。埠頭での作業全体状況をリアルタイムでみることができる遠隔監視システムが導入されており、商船三井の子会社であるTrapacという企業が経営を行っていました。インターネット時代を象徴して、エアコンの効いた事務棟の中で遠隔監視しており、埠頭で作業する人の数は少なく、効率的に機械を動かしている状況でした。港の水深40フィート以上を確保するため、浚渫作業は欠かせないとのことでした。同ターミナル近くにトヨタ倉庫などもあり、同港自動車取扱い量は、年20数万台と全米でも有数の取扱量があり、ジャクソンビル港まで鉄道が引かれており(CSX)、また、高速道路を使えば、米国東部、中西部、西部への輸送拠点として大変に便利とのことでした

○ジャクソンビル進出日系企業関係者との懇談等

6月15日午後、ジャクソンビルに進出している企業関係者の方々と懇談しました。今後の進出企業関係者間の連携の強化を当方からお願いし、併せて、マイアミ総領事館の地方相談員として、邦人援護に長く活躍して頂いた中島正博様に対して感謝状をお渡し致しました。



◆三菱パワー・システムズ(オーランド工場)訪問

6月16日、オーランド市内にある三菱パワーシステムズの発電機の補修及び加工工場を訪問しました。長谷川社長より、80年代以降、2001年のフロリダ・オーランドへの同社補修工場の建設及びその後の加工工場の拡張に至る経緯や発電機の供給先などについて詳細な御説明をお聞きした後、補修工場、その後増設した製作(動静翼)工場を案内頂きました。特に発電機に使用される鋳物にレーザーを使用しての特殊セラミック加工工程では、最新鋭の設備を導入してのロボットによる作業現場を見せて頂きました。発電機としては、石炭を燃やした熱を利用した蒸気タービン、ガスタービン発電、及び両方組み合わせたタイプの発電機があること、現在は石炭を蒸し焼きにしてガス化した上で燃焼させる蒸気タービンが環境にやさしく主流となっているがコスト高である、風力発電に取り組んでいるが、米国内で風が強く吹いている地帯が限られなど市場全体の説明もあり、更には、補修・加工工場に働く従業員の作業現場からの「改善」案を奨励しており、毎年、優秀な従業員2名を研修目的で日本に派遣しているとの御説明も聞くことが出来ました(写真:発電機の模型を前にして、右側から2人目が長谷川社長)。



○ローゼン・オーランド名誉総領事との懇談

6月17日、出張途次、ハリス・ローゼン・オーランド日本名誉総領事と懇談をしました。3月11日の東北大津波被災者のため、同名誉総領事の御子弟が通う地元レーク・ハイランド校(オーランド補習校が校舎を貸与中)と連携して義援金活動呼びかけられ、同校生徒が集めた義援金総額と同等額を自らも日本赤十字社へ寄付された行動に対して、当方から深く感謝していますとお礼申し上げました。同名誉総領事からは、「とても小さなことですが」と日本語で謙虚な御返事を頂きました。また、名誉総領事から、この懇談の翌日から、3度目のハイチ入りをして、大震災から1年を経過しても惨状に大きな変化のないハイチの人達に最低限の設備が備わったパネル住宅を提供、生活支援のため、自らが経営しているホテルのハイチ出身スタッフと4日程度現場で過ごされる予定である、とお聞きして、同名誉総領事の困っている人への思いやりに溢れた積極的行動に大変感心を致しました。

○レーク・ハイランド・プレップ学校(プレ幼稚園・小中高校)へ御礼訪問

オーランド市内にある同校にスーザン・クレイトン副理事長を訪ね、先般の東北震災被災者への義援金活動を行われたことと邦人子弟が通うオーランド補習校に校舎を提供頂いていることに感謝の気持ちを申し上げます。同副理事長よりは、日本の復興が早いことを切に祈りますとの発言がありました。



◎オルテス・オーランド市長代行との懇談

6月16日、T. オルテス・オーランド市長代行(コミッショナー)を市庁舎を訪ね、オーランド・浦安市の姉妹都市交流の現状、日本とのビジネス関係強化などについて懇談しました。

オルテス市長代行より、①青少年交流では、オーランド側から高校生を浦安市へ隔年派遣し、浦安市の青少年をオーランド市へ毎年受け入れ中。②今年7月4日、オーランド市内で日本支援キャンペーンや花火大会を予定(支援キャンペーン用のリストバンドの呈示がありました)。③オーランド市にはハイテク産業が集中しており、多数の外資企業が進出しており、日本からの企業進出に大いに期待する。④大規模国際会議に適した施設が充実との御説明があり、同市国際交流委ボード・メンバーも務め、国際会議の企画・運営・同時通訳をしている企業代表者(ジョンソン・貴子女史)の御紹介もありました。

当方から、①3月11日の東北地方3県の津波被災者に対して、フロリダ州スコット知事をはじめとし、州内の多くの方からお見舞い及び義援金が寄せられ大変に感謝しています。②今後、被災地では、単なる復旧ではなく、将来を見据えた新たな街づくりが始まることを期待していますが長い年月を要すると理解。③浦安市は3.11の大地震により、市街地に深刻な被害が出ており、松崎市長は対応に大変苦心されている。④大変な被害状況を繰り返し報道され、その後の復旧状況についての報道に限りがあり、また、風評被害もあるのが残念。⑤日本からの企業誘致に関連して、オーランドに進出中の日系企業関係者にとって、住み心地がよく、企業受け入れ環境が良いことを強く印象づけることから、まず心がけられるのが良いのではないかと助言等を当方より申し上げます。

(写真:右上がオルテス市長代行→)



◎レークランド市長との表敬・懇談

6月17日、フロリダ州のほぼ中央に位置するレークランド市の市庁舎内で、G.フィールド・レークランド市長と15分ほど懇談を行い、その後、同市姉妹都市交流委員長(J.Verplank)から今治市との姉妹交流の経緯・昨年の今治市長・市議会議長等の訪問の話をお聞きしました。7月中旬にレークランドから今治市を訪問する際は、同市での分別ごみ、リサイクルなど取り組みを視察されると大いに参考になると思いますとの助言を当方から申し上げます。

◎ウォルト・ディズニーワールド社長との懇談

6月17日、オーランドにあるウォルト・ディズニーワールド本部にメグ・クロフトン社長を訪問し、3.11の津波被災者へのお見舞いと連帯の気持ちを示した「2760」羽の折鶴をEPCOT従業員の皆様から頂いたことへの御礼を申し上げ、併せて、被災地の復旧・復興の動きの中から、より力強い日本に生まれ変わることとを確信している旨お伝えしました。クロフトン社長から、ディズニーで働くキャストを代表して感謝状を受けとるのは大変に名誉なことですとの言葉がありました。また、同社長から、ディズニー・ワールドには、毎日平均20万人が訪れ、年24万件のボランティア活動していること、オーランドのディズニー・ワールドを支えているキャスト全体数は6.5万人、さらに2万人のパートナーズがおり、フロリダ州のGDPの2.5%を占める州最大の雇用企業であるとの説明がありました。なお、同懇談をアレンジ頂いたEPCOT日本館を運営するオーランド三越の善木社長・スタッフの皆様にも御同席を頂きました。(了)

(2011年6月19日記)



在マイアミ総領事
川原 英一